

報 告

学年進行に伴う看護学生の看護師イメージおよび
キャリアコミットメントの変化室 津 史 子¹ 重 本 津多子² 羽 山 美 和¹
友 安 由貴子¹ 今 村 美 幸¹

抄 録

本研究は、看護系大学生の看護師イメージとキャリアコミットメントについて学年による特徴や経年的変化について検討することを目的とした。

A看護系大学の学生を対象として2013年と2014年の2回、同一対象者に自記式質問紙調査を行い、看護師イメージおよびキャリアコミットメントについて学年毎に2年間の比較を行った。

看護師イメージの外観的要素は3学年ともに前年度より低下し、専門的職業要素において3年生は2年生よりも変動値が大きかった。またキャリアコミットメントにおいては情緒的因子が2年生と3年生で低下し、計算的因子と規範的因子の変動値は2年生が3年生や4年生より大きかった。

学生は専門的な学習や実習において現実的な厳しさに直面していく。入学早期から看護を学ぶレディネスを持たせる十分な関わりが必要であり、早期の実習の中で看護を学ぶ意欲を高める教育的工夫が重要である。

Key words: 看護学生, 看護師イメージ, キャリアコミットメント

1. 序 論

キャリア教育の必要性や方向性が示される背景には、自立的な進路選択や将来計画が希薄なまま、進学や就職する者が増加している現状がある¹⁾。

その中で、看護系大学で学ぶ学生は、看護職になるという具体的な職業志向を持つ学生が多いと推察できる。しかし大学全入時代を迎えた現在、看護系

大学数も増加し、2015年には241校となった。看護教育における質の確保は重要であり、看護教育においても学生の現状を捉えたキャリア教育が必要である。

Blau²⁾は、看護師を対象とした研究を基に、キャリアコミットメントが組織コミットメントとは独立して存在していると報告している。実際に、専門職ではやりがいや能力開発を通じて規範を高めることに満足を得ており、在職理由には報酬が寄与しないと報告³⁾しており、看護師対象の縦断調査の中ではキャリアコミットメントと組織コミットメントは葛藤を生じないと報告している⁴⁾。コミットメントは、

受稿：2015年12月24日 受理：2016年3月29日

¹ 広島都市学園大学健康科学部看護学科
〒734-0014 広島市南区宇品西5丁目13-18

² 天理医療大学医療学部看護学科

組織や職業に対する心理的態度を意味しており、これまで個人の組織に対する帰属意識を表す概念として組織におけるコミットメントを中心に検討されていたが、Meyer⁵⁾によって職業におけるコミットメントに適用されている。さらにキャリアコミットメントは学校教育や職業・職場等を通して形成され、職業や職場への適応に密接に関係するとされる⁶⁾。つまり看護学生のキャリアコミットメントは、学習態度やストレス対処行動にも影響をおよぼすと考えられ質の高い教育を進めるうえで重要な視点と考える。

また、新卒看護師の職業コミットメントについての研究では、職業コミットメントの一時点の状態だけでなく、入職前後の変動、つまり職業コミットメントの形成状況を考慮する必要がある。特に情緒的コミットメントの関連性は強く、入職前から入職後3か月へかけての変動が、入職後1年の職業継続意欲にまで関連するため、入職後も引き続き看護職に誇りをもてるような情操教育を取り入れることの必要性も述べられている⁷⁾。専門職である看護師は、看護の初学者である学生から、職業に対する愛着を促進する関わりが望まれる。

また、看護師イメージというのは学生の職業に対する自己像が反映されたものであると考えられ、学生の職業意識の発達過程を理解する一助となる。看護師イメージの因子構造に関する先行研究では、因子として専門職イメージや外観的なイメージ、魅力的職業イメージが抽出されている^{8)~10)}。さらに学年進行による看護師イメージへの影響について、やさしさ、あたたかさといったイメージは学年進行とともに低下し、逆に仕事の大変さは上昇するとされる¹¹⁾。また、看護系大学生と短大生では、短大生は学年進行にともなって看護師イメージが低下するが、大学生は好イメージになるという報告¹²⁾と、看護師イメージは学年進行にともなって肯定的イメージに変化する¹³⁾としたものがある。

このように看護師イメージと学年進行との関係を見ると、学年進行によって看護師イメージが肯定的になるとするものと、肯定的か否定的かはイメージの内容によって異なるとするものがみられ検討の余地がある。そして大学教育の現状や社会情勢の変化

による看護学生のキャリアコミットメントの変化について検討することは、キャリア教育を進める上で有意義である。

2. 研究目的

本研究は、看護教育において看護職としてのキャリアコミットメントを育成するための支援方法の示唆を得るために、看護系大学生の看護師イメージとキャリアコミットメントについて学年による特徴や経年的変化について検討する。

3. 方 法

3.1 対象者

対象はA看護系大学の学生322名である。学年進行に伴う変化をみるために、2013年と2014年の2回、同一学生を対象とした。1年生は大学生となり看護教育の学びをスタートさせた頃、2年生は入学後1年を経て教養科目や看護の基盤となる科目を学修したところ、3年生は看護の専門的な内容が展開される科目を学び基礎看護学実習を終え、領域実習に臨む年となる。4年生は各領域の実習を終えて卒業や就職を前にした学年である。

3.2 調査期間

調査は2013年および2014年の5～6月に実施した。

3.3 調査方法

対象者に割り振られた識別IDを質問紙に記載する自記式質問紙調査とした。識別IDについては、2013年にID番号を入れた封筒を無作為に配布した。質問紙にID番号を記入した後、番号の書かれたカードを入れた封筒を対象者自ら閉封し封筒の表に氏名を記入した。閉封された形で保管し、2014年に対象者それぞれが開封し、同一ID番号を質問紙に記入する形により、2013年と2014年の2回、同一対象者に調査を行った。

3.4 調査内容

調査内容は、性別、年齢、工藤ら¹⁴⁾の看護師イメージ20項目の形容詞対について7段階評定、石田ら¹⁵⁾

のキャリアコミットメント15項目について5件法により回答を求めた。キャリアコミットメントは前述のMeyerらによって開発され、3つの下位概念から構成される。第一に“看護師であることに誇りを感じる”など職業に対する情緒的な愛着を表す「情緒的要素」、第二に“今、看護師以外の仕事に変わるといういろいろな意味で損をするだろう”といった「計算的要素」、第三は“看護という職業（看護を学ぶこと）への責任感や義務感”などに由来する「規範的要素」である。

学生生活において楽しいものについての設問は、講義、演習、実習、友達関係、サークル活動の設定項目から選択してもらった。

3.5 分析方法

看護師イメージについては用いた形容詞20項目について、最小二乗法Promax回転による因子分析を行った。キャリアコミットメントについては既存尺度による因子を用いた。

看護師イメージおよびキャリアコミットメントの各因子の平均点について、学年毎に2年間の比較を行った。差の検定には対応のあるt検定を用いた。

次に看護師イメージおよびキャリアコミットメントの各因子の平均点の年度間の変動値について学年別に比較した。差の検定には一元配置分散分析を用い多重比較を行った。

学生生活において楽しいと思うものと看護師イメージおよびキャリアコミットメントとの関連については、項目ごとに、選択した群と選択しなかった群の2群間において、看護師イメージおよびキャリアコミットメントの各因子の平均点について比較した。差の検定には対応のないt検定を用いた。分析ソフトはSPSS Statistics 16.0を使用した。

3.6 用語の定義

本稿では2年間の比較をしているため、学年の表記については以下のように2014年の該当年次とする。

2年生とは、2013年に入学し2014年に通常の2年生の担当科目を履修する学生をいう。

3年生とは、2013年に2年生の科目を履修し2014年

に通常の3年生の担当科目を履修する学生をいう。

4年生とは、2013年に3年生の科目を履修し2014年に通常の4年生の担当科目を履修する学生をいう。

3.7 倫理的配慮

研究者の所属する施設の倫理審査委員会の承認を得た後、対象者に研究の趣旨、協力の自由、匿名性の保持等について書面にて説明し、質問紙に同意確認欄を設けた。

4. 結果

4.1 属性

有効回答率は73.0%（2年生59名、3年生85名、4年生91名）であった。性別の内訳は、男性43名、女性192名であった。

4.2 看護師イメージの因子分析

まず看護師イメージについて、最小二乗法Promax回転による因子分析を行った。因子負荷量0.35以上でスクリープロットを参照し、解釈可能な因子となるまで分析を繰り返した。結果20項目のうち14項目が残り、3因子が抽出された。第Ⅰ因子は7項目、第Ⅱ因子は4項目、第Ⅲ因子は3項目となった（Table 1）。

第Ⅰ因子は、「重要な」「責任感の強い」「価値のある」などの7項目で「専門的職業要素」とした。第Ⅱ因子は、「活気のある」「明るい」「温かい」「やさしい」の4項目で「看護師の外観的要素」とした。第Ⅲ因子は「好きな」「なりたい」「面白い」の3項目で「職業的魅力要素」とした。3因子の α 係数は「専門的職業要素」0.87、「看護師の外観的要素」0.86、「職業的魅力要素」0.79であり内的整合性が確認された。

4.3 看護師イメージの変化

看護師イメージの3因子について、それぞれの平均点を前年度と比較した結果、2年生では看護師の外観的要素の因子得点が 6.11 ± 1.08 から 5.71 ± 1.10 と低下した（ $n=59$ ； $t=3.160$ ； $p<0.01$ ）。また職業的魅

力要素についても 5.38 ± 1.24 から 5.06 ± 0.81 と年次進行により低下した($n=59$; $t=2.063$; $p<0.05$)。

3年生では、看護師の外観的要素が 5.61 ± 1.00 から 5.06 ± 1.15 と低下した($n=85$; $t=4.286$; $p<0.001$)。

4年生では、専門的職業要素が 6.09 ± 0.87 から 5.84 ± 0.82 と低下した($n=91$; $t=3.252$; $p<0.01$)。また看護師の外観的要素も 5.39 ± 1.04 から 5.07 ± 1.04 と低下した($n=91$; $t=3.341$; $p<0.01$)。

3学年共に低下したのは看護師の外観的要素であり、職業的魅力要素は2年生で低下し、専門的職業要素は4年生が前年度より低下していた(Table 2)。

次に、看護師イメージ各因子の平均点の前年度からの変動値は専門的職業要素において3年生が 0.64 ± 0.60 , 2年生が 0.41 ± 0.34 と、2年生よりも3年生の変動が大きかった($F(2,232)=3.357$; $p<0.05$) (Fig. 1)。

Table 1 看護師イメージの因子分析

最小二乗法による Promax 回転

第Ⅰ因子 専門的職業要素 (7項目) $\alpha = .870$			
2. 重要な	.929	-.047	-.026
1. 責任感の強い	.840	.058	-.146
3. 価値のある	.756	.053	.090
7. 知的な	.673	-.048	.120
4. 労の多い	.624	-.045	-.074
5. 特色のある	.589	-.001	-.008
6. 理性的な	.480	.006	.034
第Ⅱ因子 看護師の外観的要素 (4項目) $\alpha = .863$			
12. 活気のある	-.047	.956	-.040
11. 明るい	-.054	.936	-.083
13. 温かい	.175	.514	.186
14. やさしい	.035	.463	.239
第Ⅲ因子 職業的魅力要素 (3項目) $\alpha = .791$			
19. 好きな	-.052	.004	.869
20. なりたい	.058	.004	.735
17. 面白い	-.065	-.024	.686
因子間相関			
専門的職業要素 I	—	.495	.415
看護師の外観的要素 II		—	.620
職業的魅力要素 III			—

Table 2 学年別にみる看護師イメージの変化

$n=235$

		2年生 (平均値 ± SD)	3年生 (平均値 ± SD)	4年生 (平均値 ± SD)
専門的職業要素	前年度	5.99 ± 0.74	5.81 ± 0.80	6.09 ± 0.87
	本年度	6.08 ± 0.65	5.83 ± 0.76	5.84 ± 0.82
看護師の外観的要素	前年度	6.11 ± 1.08	5.61 ± 1.00	5.39 ± 1.04
	本年度	5.71 ± 1.10	5.06 ± 1.15	5.07 ± 1.04
職業的魅力要素	前年度	5.38 ± 1.24	4.89 ± 1.08	5.02 ± 1.16
	本年度	5.06 ± 0.81	4.65 ± 1.23	5.05 ± 1.12

対応のある t 検定 * $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

Table 3 学年別にみるキャリアコミットメントの変化

$n=235$

		2年生 (平均値 ± SD)	3年生 (平均値 ± SD)	4年生 (平均値 ± SD)
情緒的要素	前年度	3.88 ± 0.80	3.42 ± 0.86	3.35 ± 0.79
	本年度	3.66 ± 0.55	3.26 ± 0.78	3.47 ± 0.75
計算的要素	前年度	3.06 ± 0.99	3.71 ± 0.89	3.76 ± 0.81
	本年度	3.26 ± 0.77	3.82 ± 0.81	3.73 ± 0.73
規範的要素	前年度	3.10 ± 1.36	3.71 ± 1.11	3.67 ± 1.18
	本年度	3.44 ± 0.99	3.74 ± 1.06	3.57 ± 1.12

対応のある t 検定 * $p < .05$

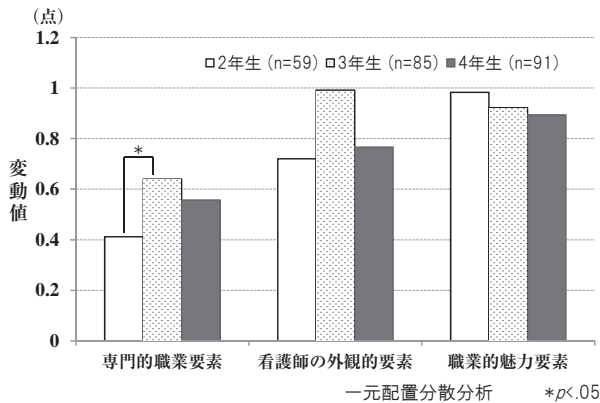


Fig. 1 学年別にみる看護師イメージの前年度からの変動

4.4 キャリアコミットメントの変化

キャリアコミットメントの各因子の平均点における前年度との比較では、2年生では情緒的要素が 3.88 ± 0.80 から 3.66 ± 0.55 と低下した ($n=59$; $t=2.115$; $p<0.05$)。

3年生でも情緒的要素が 3.42 ± 0.85 から 3.26 ± 0.78 と低下した ($n=85$; $t=2.343$; $p<0.05$) (Table 3)。キャリアコミットメント各因子の平均点の前年度からの変動値をみると、計算的要素では2年生 0.77 ± 0.63 , 3年生 0.52 ± 0.49 , 4年生 0.55 ± 0.50 であり2年生は3年生および4年生と比較すると変動が大きい ($F(2,232)=4.328$; $p<0.05$)。

規範的要素においては2年生 1.12 ± 0.91 , 3年生 0.71 ± 0.69 , 4年生 0.71 ± 0.67 と、2年生は3年生や4年生よりも変動が大きかった ($F(2,232)=6.765$; $p<0.01$) (Fig. 2)。

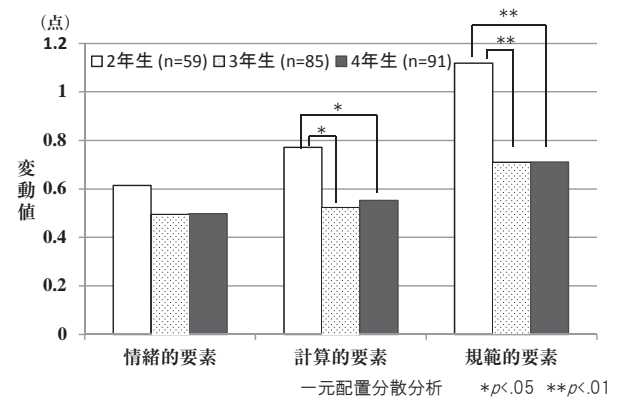


Fig. 2 学年別にみるキャリアコミットメントの前年度からの変動

4.5 大学生活の中でおもしろいと思うものの選択からみる看護師イメージおよびキャリアコミットメント

大学生活の中でおもしろいと思うものについて設定した講義、演習、実習、サークル、友人関係の5項目についてみると、最も選択数が多かったのは友人関係の195名であった。次いで演習44名、実習31名、講義18名であった。

次に、各項目についておもしろいという選択をした群としなかった群の2群間において2014年度の看護師イメージおよびキャリアコミットメントの各因子の平均点を比較した。その結果、看護師イメージでは、講義を選択した群は選択しなかった群よりも専門的職業要素の得点が高かった ($n=235$; $t=2.513$; $p<0.05$)。演習を選択した群はしなかった群よりも専門的職業要素の得点が高く ($n=235$; $t=2.537$;

Table 4 大学生活の中でおもしろいと思うものの選択からみる看護師イメージおよびキャリアコミットメント $n=235$

			〈看護師イメージ〉			〈キャリアコミットメント〉		
			専門的職業要素 (平均値 ± SD)	看護師の外観的要素 (平均値 ± SD)	職業的魅力要素 (平均値 ± SD)	情緒的要素 (平均値 ± SD)	計算的要素 (平均値 ± SD)	規範的要素 (平均値 ± SD)
講義	選択 (18名)		6.32 ± 0.47*	5.61 ± 1.26	4.94 ± 1.41	3.73 ± 0.83	3.33 ± 1.01	3.56 ± 1.11
	非選択 (217名)		5.86 ± 0.77	5.19 ± 1.11	4.90 ± 1.08	3.42 ± 0.72	3.67 ± 0.77	3.60 ± 1.07
演習	選択 (44名)		6.16 ± 0.41*	5.61 ± 0.83*	5.50 ± 0.85**	3.89 ± 0.63***	3.30 ± 0.97**	3.39 ± 1.24
	非選択 (191名)		5.83 ± 0.81	5.13 ± 1.17	4.77 ± 1.22	3.34 ± 0.71	3.73 ± 0.74	3.65 ± 1.02
実習	選択 (31名)		5.88 ± 0.85	5.48 ± 1.30	5.62 ± 0.97***	3.87 ± 0.65***	3.10 ± 0.89***	3.43 ± 1.25
	非選択 (204名)		5.90 ± 0.75	5.18 ± 1.10	4.80 ± 1.09	3.38 ± 0.72	3.73 ± 0.75	3.62 ± 1.04
サークル	選択 (30名)		5.92 ± 0.72	5.25 ± 1.35	5.00 ± 1.09	3.64 ± 0.81	3.25 ± 0.79**	3.29 ± 0.95
	非選択 (205名)		5.89 ± 0.77	5.22 ± 1.09	4.90 ± 1.11	3.41 ± 0.71	3.70 ± 0.79	3.64 ± 1.08
友人関係	選択 (195名)		5.93 ± 0.76	5.24 ± 1.10	4.90 ± 1.08	3.46 ± 0.70	3.65 ± 0.79	3.62 ± 1.05
	非選択 (40名)		5.74 ± 0.77	5.11 ± 1.26	4.95 ± 1.25	3.37 ± 0.86	3.63 ± 0.86	3.49 ± 1.16

対応のない t 検定* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

$p<0.05$), 看護師の外観的要素の得点も ($n=235$; $t=2.600$; $p<0.05$), 職業的魅力要素の得点も演習を選択した群が高かった ($n=235$; $t=4.051$; $p<0.05$)。また, 実習を選択した群はしなかった群よりも職業的魅力要素の得点が高かった ($n=235$; $t=3.974$; $p<0.001$)。サークルおよび友人関係において差はみられなかった。

キャリアコミットメントの各因子の平均点についてみると, 演習を選択した群は選択しなかった群よりも情緒的要素の得点が高く ($n=235$; $t=4.710$; $p<0.001$), 計算的要素の得点が低かった ($n=235$; $t=3.256$; $p<0.01$)。また実習を選択した群はしなかった群よりも情緒的要素の得点が高く ($n=235$; $t=3.592$; $p<0.001$), 計算的要素の得点が低かった ($n=235$; $t=4.268$; $p<0.001$)。

サークルを選択した群はしなかった群よりも計算的要素が高かった ($n=235$; $t=2.902$; $p<0.01$) (Table 4)。

5. 考 察

看護師イメージとしては, 責任感が必要で価値ある仕事をする専門職業人であるという視点と, 温かさや優しさといった白衣の天使をイメージする外観的なものがうかがえる。そして自分に合っているかあるいは仕事におもしろさを感じるかといった職業としての魅力の視点がある。

多くの学生が看護職を目指して入学すると思われるが明るさや優しさといった看護師の外観的なイメージは, どの学年においても前年度よりも低下している。これは専門的な学習が進む中で, 現実的な厳しさを自覚していくためと考える。

3年生で職業的魅力要素が低下し4年生では専門的職業要素が低下していることから, 専門科目が増えて領域実習を前にした3年生は学習の大変さに追われて, おもしろさや楽しさというところまで到達し難いのではないだろうか。そして, 多くの専門科目と実習を学修した4年生になると, 座学のみでイメージしていた医療や看護の実際を3年次の実習で経験する機会を得る。想像の中では高く感じていた専門的な学びのハードルが, 見学や実践を伴う実習を終えることができたという達成感や安堵感によっ

て, 少し下がると考える。専門的職業要素における前年度からの変動が3年生で大きい点からも, 学生たちは基礎的な学びからより専門的な学習進度となる頃に看護師イメージの揺れが大きいと思われる。看護という職業を志向していくキャリアコミットメントについてみると, 情緒的要素が2年次, 3年次と低下している。情緒的要素は看護師であることに誇りを感じるといった看護師の仕事に対する情緒的な愛着を表す。

看護あるいは看護師に心惹かれ, 職業としての魅力を感じつつ学びを積み重ねることが望まれる2年次, 3年次に情緒的要素が低下することはキャリア教育を考える上で一つの課題である。藤縄ら¹⁶⁾の看護学生の職業アイデンティティに関する研究でも, 入学直後に職業アイデンティティはもっとも高く, 3年生でもっとも低下するとしており, 看護のおもしろさを感じさせられるような教育的関わりが必要である。

またキャリアコミットメントの計算的要素における前年度からの変動値が2年生で大きい点は, 入学当初に抱いていた憧れのな看護師像や楽しい学生生活とは異なり, 厳しい看護現場の実情や過密な看護教育という現実とのズレによるものと考ええる。

そして, 大学生活の中でおもしろいと思うものについての選択では講義を選択している学生は18名にとどまっている。1年次は演習や実習が少なく実践的な看護を学ぶための基礎を固める時である。手探りの中で看護をイメージし, 実際の看護場面を想像することは難しい。しかし, 大学生活の中でおもしろいものとして講義を選択している学生群は看護師イメージの専門的職業要素が高く, 学ぶおもしろさとなっている。

また, 演習がおもしろいとした学生群は全ての看護師イメージの因子別得点が高く, キャリアコミットメントの情緒的要素が高く計算的要素が低い。看護基礎教育において最初に出会う看護職は教員である。学内演習という模擬的な実践の場であっても, 学生は教員を通して看護のすばらしさや看護師の姿勢を学ぶ。グレッグ¹⁷⁾は, 看護ときずなという構造モデルを示し, さまざまな人と出会い, その相互作用の中で看護と看護師である自分を学ぶ。さらに

看護の価値を認識し自己の看護観を確立する。そして看護師という役者を演じるのではなく自己と看護師が統合しているという感覚を持つ。このプロセス全般において教育は大きな影響因子であるとしている。

質の高い看護師を育てるためには看護基礎教育における学生支援の質を高めることが必要であり、特に演習や実習の場における関わりが重要である。

実習前後の調査により、基礎看護学実習は学生の看護師イメージをポジティブに変化させることが期待できる実習であるという研究¹⁸⁾もみられ、計算的要素のみでなく情緒的要素を高めて看護師という職業に対する愛着を持てるような支援が望まれる。今回の調査では、2年生は実習を経験する前の時期であるため、3年生と4年生のみの結果であり、更に研究を重ねる必要がある。

また、看護師イメージやキャリアコミットメントと演習や実習における具体的な関連要因については調査できていない。この点は課題であり今後さらなる研究を重ねることとする。

6. 結 論

多くの学生が看護職を目指して入学すると思われるが明るさや優しさといった看護師の外観的なイメージは、学年進行により低下している。

また基礎的な学びからより専門的な学習となる3年生の頃は看護師イメージの揺れが大きくなり今後のキャリアを方向付ける時期と推察される。

看護あるいは看護師に心惹かれ、職業としての魅力を感じつつ学びを積み重ねることが望まれる2年次、3年次に情緒的要素が低下することはキャリア教育を考える上で一つの課題である。

演習や実習がおもしろいと感じることができれば肯定的な看護師イメージとなり、看護に愛着を持つ情緒的要素が高まり計算的要素が下がることが示唆された。自らの職業に誇りを持ち質の高い看護を提供する専門職を育てるために、演習や実習における具体的な教育方法を模索していくことが必要である。

謝 辞

本研究にご協力いただきました学生の皆様に感謝

いたします。なお利益相反に相当する事項はありません。

引用文献

- 1) 文部科学省. 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について：キャリア教育・職業教育の課題と基本的方向性：http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/attach/1303768.htm (2014.10.10)
- 2) Blau G J. The measurement and prediction of career commitment. *Journal of Occupational Psychology* 1985 ; 58 : 277-288.
- 3) 石山ひとみ, 石井範子. 看護職の学習行動と組織・専門コミットメントとの関係性. 秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻紀要 2010 ; 20 (1) : 31-41.
- 4) 難波峰子, 矢嶋裕樹, 二宮 一枝, 高井 研一. 看護師の組織・職務特性と組織コミットメントおよび離職意向の関連. 日本保健科学学会誌 2009 ; 12 (1) : 16-24
- 5) Meyer J P, Allen N J and Smith C. Commitment to organizations and occupations extension and test of a three-component conceptualization. *Journal of Applied Psychology* 1993 ; 78 (4) : 538-551.
- 6) 石田真知子, 柏倉栄子, 杉山敏子. 看護学生のキャリアコミットメント尺度の検討. 東北大学医療技術短期大学紀要 1999 ; 8 (1) : 87-93.
- 7) 竹内智子, 戸カ里泰典, 佐々木美奈子, 真田弘. 新卒看護師の職業コミットメント - 入職前後の変動ならびに職業継続意欲との関連性 - . 日本看護管理学会誌 2012 ; 16 (1) : 5-12.
- 8) 岩永秀子, 山本昇. 看護学生の自己教育力に及ぼす看護婦イメージの影響. 日本看護学教育学会誌 1997 ; 7 (3) : 17-27.
- 9) 門脇千恵, 臼井千津. 看護系大学生がもつ看護職に対するイメージ構造. 日本看護学教育学会誌 2000 ; 10 (2) , : 179.
- 10) 國重絵美. 看護職の職業認識尺度の開発とその信頼性・妥当性の検討. 日本看護学教育学会誌 2002 ; 12 (2) : 15-25.
- 11) 林喜美子, 松本明美他. 看護婦と看護職のイメージに影響を及ぼす諸要因. 川崎医療短期大学紀要 1990 ; 61-66.
- 12) 真鍋淳子, 野尻雅美他. 看護学生の看護婦イメージの研究：大学生と短大生の比較. 看護教育 1994 ; 35 (6) : 427.
- 13) 和田佳子, 大石武信, 小林三千子, 西脇洋子. 看護婦イメージに関する研究 (3). 新潟県立看護短期大学紀要 2001 ; 7 : 77-84.
- 14) 工藤由紀子, 石井範子. 看護大学生の看護に対するイメージ-入学時における家族背景-入学動機と卒業後進路志望との関連から-. 秋田大学医学部保健

学科紀要 2003 ; 11 (2) : 119-126.

- 15) 石田真知子, 柏倉栄子, 杉山敏子. 看護学生のキャリアコミットメント尺度の検討. 東北大学医療技術短期大学紀要 1999 ; 8 (1) : 87-93.
- 16) 藤縄理, 久保田章仁, 水野智子, 谷合義旦, 久保田富夫, 朝日雅也 他. 学生の専門職アイデンティティとコミュニケーション能力の分析. 埼玉県立大学紀要 2004 ; 6 : 31-37.
- 17) グレグ美鈴. 看護師の職業アイデンティティに関する中範囲理論の構築. 看護研究 2002 ; 35 (3) : 196-204
- 18) 渕野由夏, 加藤法子, 中野榮子, 永嶋由理子, 津田智子, 山名栄子. 基礎看護実習 I の実習前後における看護師イメージ変化の比較検討. 福岡県立大学看護学部紀要 2008 ; 5 (2) : 89-96.

Changes in nursing students' image of a nurse and their career commitment as they progress through academic years

Fumiko MUROTSU¹ Tsutako SHIGEMOTO² Miwa HAYAMA¹
Yukiko TOMOYASU¹ Miyuki IMAMURA¹

Abstract

This study aims to review the image of a nurse held by nursing students and their career commitment, with a focus on academic year specific characteristics and chronological changes.

Study subjects were year 2-4 students in a university nursing program. A questionnaire survey was conducted twice, in 2013 and 2014, covering the same subjects. Comparisons were made between the two years for each academic year, concerning the nursing students' image of a nurse and in their career commitment.

In all three academic year levels, the external elements in their nurse image declined compared to the previous year. In the professional elements, the third year group showed larger changes than the second year group. In terms of their career commitment, the affective factors declined in the second year group as well as in the third year groups, while the calculative factors and the normative factors showed larger changes in the second year group than those in the third year group or the fourth year group.

The students face the harsh reality of practice through professional learning and practical learning. Full commitment is necessary from an early stage, soon after program enrollment, to facilitate the students' readiness to learn nursing. Therefore, innovative teaching becomes important to raise the morale of students to learn nursing through practical training in the early stages.

Key words: nursing students, image of a nurse, career commitment

¹ Department of Nursing, Faculty of Health Science, Hiroshima Cosmopolitan University
5-13-18 Ujinanishi, Minami-ku, Hiroshima 734-0014, Japan

² Department of Nursing, Faculty of Health Care, Tenri Health Care University